

研修報告書 No.24

○県外在住医師から見た高知の地域医療の状況

私は現在大阪で働いており、高知県での1ヶ月の地域医療研修にてその地域差を格段に感じた。高知県は人口一人あたりに対する医師数が全国で3位と多いが、実際に高知に行っ
て感じたことは、県内でも地域差が大きいということである。高知県は端から端まで行こう
と思うと、車で3時間から4時間程度はかかってしまう。また、私が研修を行った病院のあ
る安芸地域は、まだ高速道路もできておらず一番近い高速ICから1時間30分ほど走る必
要があり、とても交通の便が悪かった。さらに、高齢化、人口減少が進んでおり、医療機関
も運営者である医師が高齢となり、閉院する病院が後を絶たない。医師だけでなく、理学療
法士や訪問看護師も少なく、医療を行うのに非常に不便が多いことを痛感させられた。また、
指導医が不足していることから、臨床研修医や専攻医が少なく、若手の医師の不足も大きな
課題ではないかと感じた。

診療をしていくなかで、終末期の患者さんや、急変された患者さんを診る機会もたくさん
あった。研修病院の近くは人口減少や高齢化が進んでおり、子ども世代が遠方にいるため独
居の方も多く、急変した際にどうするのか、また日常において生活の補助を誰が行うのかも
大切な課題であると痛感させられた。一方、地域包括ケアシステムが地域の中で非常に強く、
カルテがこまめにチェックされており、訪問ケアも充実していた。この地域では、電車の本
数も少なく、また駅から遠くに住まれている患者さんも多く、自家用車が必須であるが、脳
梗塞の既往や認知症などがあると運転免許を返納せざるを得ない。高齢の患者さんが自分
の足で病院まで赴くことは難しく、また、支えてくれる親族も近くにいない、そのような状
況での訪問介護や訪問リハビリ、訪問看護、訪問診療などの訪問ケアの重要性を痛感させら
れた。

医師の働き方についても考えさせられるものがあった。昨今、医師の過重労働が問題にな
っており、医師の働き方改革が進んでいるが、地域の病院は小さく、医師の数も少ないなが
ら多くの患者を抱えており、どうしても過重労働が余技なくされている現状を目の当たり
にした。当直医が不足しており、患者さんの急変の際に、どうしてもそちらに回らなければ
ならず、業務がストップして残業となる場面も見受けられた。もう少し、高知県の中でもさ
らに地域の医療圏に人手、人材をまわせるような工夫も必要なのではないかと感じた。

このように、地域においては、人手、医療資源、医療機関が少ないことが問題ではある。
しかし、実際に1ヶ月働き、その限りある資源を工夫して負担を減らす工夫もたくさん見る
ことができた。例えば、ある病院では病床1つ1つにリフトが備え付けられており、通常で
あれば2人以上必要なベッド移乗も看護師一人でできるようになっていた。また高知県内
ではカルテの共有がなされており、患者さんが違う病院や施設に行く際に紹介状を書いた

り、カルテを書き写したりする手間が省けるようになっていた。

また、放射線画像の読影をする医師がそれぞれの病院に常勤することは人手不足で難しいため、遠隔で読影を依頼できるようなシステムができあがっていた。このような小さなことではあるが、少ない資源を有効に使う工夫に非常に感服した。

○研修内容に対する意見

1ヶ月という短い期間であったが、毎日たくさんの日程を組んでいただき、限られた時間の中でたくさんのことを学ぶことができた。特に、デイケアや訪問診療は見る機会はあまりないため、とても勉強になった。

また、たくさんの手技も外来や手術などで行うことができたので、非常に良い経験となった。また、病院の医師をはじめ、たくさんのスタッフの方々が優しく接していただき、有意義な研修となった。

○今回の臨床研修で得たと考えられるもの

今回の研修にて地域医療の現状、必要性を痛感させられた。大学病院でいると分からない、地域に寄り添った医療を体感することができた。高度な医療ばかりでなく、地域の病院で定期的に出す処方や、外来の大切さ、デイケアや訪問ケア、ヘルパーなど病院と施設の連携、地域病院間の連携の大切さを知り、これに関しては地域の方が進んでおり、私の働く地域でも活かすことができればよいと感じた。